

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271600607		
法人名	有限会社 三幸		
事業所名	グループホームさくらんぼ さくらユニット		
所在地	出雲市斐川町今在家403-1		
自己評価作成日	令和4年2月17日	評価結果市町村受理日	令和4年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和4年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して17年目になります。近隣の入所者も多くなり、地元に着した施設といえるようになりました。自然が多くある中に立地されており、コロナ禍ではありますが近隣の散歩は継続しています。屋内で過ごしていただく時間が多い昨今ですが、できるだけ楽しんでいただけるよう考え支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

川を背にした平坦な平野の中にあり、敷地も広々として開放感がある恵まれた環境に、2つのユニットが中庭を挟んで並んでいる。ここ数年はコロナの中で消毒や換気など環境を整えることに時間がかかり、限られた人数で業務をこなすことへの苦悩が感じられた。その中でも職員間のチームワークは良く、入居者の思いに耳を傾け、食べたいものはできるだけ作り、やりたいことはできるだけ早くプログラムに繋げるようにしている。月1回ケーキ喫茶を開催。雰囲気を変えて女性の入居者と女性の職員とで女子会を行うなど、施設内で何とか楽しみをという思いが強く感じられた。車いすの方も多いが、座ったままでもできる機能訓練体操を工夫するなど前向きに取り組んでいる。今後に於いても職員個々のレベルアップに努めることで認知症ケアの充実に繋げていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲げてある。以前は会議の際に唱和していたが、コロナ感染対策必要項より唱和しなくなったが、全職員が理念については認識はあると思われる	コロナ禍以前は、大半の職員が勤務年数5年以上と長いので、全員で唱和することで意識を新たにしていたが、感染防止のため今は中止している。当初からの理念を継続しているため考え方は共有できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策実施までは散歩時に近隣の方との交流や、地域コミセンでの喫茶に参加していたが、上記以後はほぼ何もない状態である	車で5分の所にコミセンがあるため、以前は毎月の喫茶を含め行事等に参加を続けていたが、中止となり途絶えている。民生委員の方々の掃除ボランティアも受け入れを中止している。	地域との関係性が途切れないう、取り組んでいただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域の方を主体に認知症bん協会など開催していたが、コロナ対策以後、企画できていない状態である。収束すればぜひ開催したいと思っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策としての書面会議が続いており、書面内容に対し返信でのご意見を頂いている状態であり、積極的な話し合いができず、建設的意見をいただくことにまで結びついていないのが現状である	大半は書面開催とし、コロナ感染者の少ない時に集合して開催している。参加者も家族代表、包括、民生委員と人数も絞って広い場所で行い、入所者の状況や行事、研修等を報告し意見交換に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困っていることに対し、普段から相談し、回答が得られている	生活保護担当課には状況報告を続けており、今後についても話し合っている。認定調査で関わりがあり、介護保険関連の問い合わせを電話等で行い、行政とはいい関係性が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に継続できている	日中は玄関の施錠は行わず開放している。センサーマット使用者については、見直しなど常に検討を続けている。参加者を区切りながら施設内研修も行き、内容については全員で共有するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会も持ち防止に努めており、またこれまでも虐待等の事例もなく現在もそのような可能性もなく日々ケアされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ここ近年学ぶ機会には設けていないが、その必要性のある該当者もなく現在に至っている。該当者がいらっしやれば即時研修の機会を設ける必要があると感じている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行いご理解の上で締結してきた。また解約や入院時など特変の事態にも再度ご説明を行い、都度ご理解を得るように努めてきた。改定時には事前に書面で説明、再契約契実施した		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	改めての機会はないが、普段よりご家族様には面会時など、利用者にはマンツーマン対応時などに傾聴するようにしている。また以前は運営推進会議の場でもご意見を述べてもらった	面会が限られ間隔が空くことから、管理者は電話やラインでの状況報告を密に行うようにしている。個人的にもバイタルから体重など身体状況に加え、日頃の様子を写真入りで詳しく書いた便りを作成し好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年二回の賞与を渡す機会に、聞きたいことなどあれば改めて傾聴するようにしている	賞与に合わせて年2回個人面談がある。ベテラン職員が多く、日頃から意見は良く出ている。限られた職員に責任がかからないように、その日の日勤者がリーダーとして意見をまとめ、管理者に報告するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準については、常日頃から気にかけている。また職員の人員不足についても努力しているが、実践につながるものが少ないのが実情である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染の危険性を考え積極的な研修参加はしていなかった		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染の危険性を考えここ2年は取り組んでいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていることがあれば都度話を聴き一緒に考え解決するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に困っておられること、心配事、要望など傾聴するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行ない、必要な支援の把握、実行に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個性や今までの生活を大切にし、自分ができることはしていただきできないことは寄り添いサポートしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に問題が起こった際には家族に相談、報告は都度している。また毎月ご家族あてへの状況報告書を各人ごとに作成し送っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望があったときには携帯でのメール、はがき等の手段で、フォローしながら関係性が継続するよう支援している	入所者の中に以前所属していた会からの誘いがあつた方がおり、職員が付き添い神社の参拝に出かけている。普段から新聞の出来事を話題に取り上げたり、年中行事に合わせて特別食を用意するなど、懐かしく思い出せるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係性が保たれるよう普段から見守り、時には間に入りやり取りができるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでは退所後、本人に面会に行くようにしていたが、コロナ禍で現状できていない。代わりに電話などで相談員などに状況をお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活ではあるが、その状況の中、一人一人本人の意向や身体状況に沿った生活が過ごせるよう極力支援している	認知が進んで個々の思いの把握の難しさを感じつつも、こうしてあげたい、その時々を楽しめるようにとの思いをプランに繋げるようにしている。家族からは穏やかに過ごせるようにとの思いが多く聞かれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを十分に行ない、必要な支援の把握、実行に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めているといえる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員によるカンファを開催し、意見アイデアを引き出し、介護計画作成につなげている	コロナ禍の為、本人の家族関係者が参加しての担当者会議はできないが、限られた面会の時や電話等で聞き、計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	左記の通り実行しているといえる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいるといえる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で十分な利用はできていない。現在出張の足つぼ療法を利用しているくらいである		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に内科医についてはご家族の希望で決めていただいているが、全員苑の協力医による往診を受けていらっしゃる。また精神科医についても苑のかかりつけ医を希望され苑で対応している	今でものかかりつけ医を継続することも、往診可能な施設の協力医に変更することも可能になっており、全員協力医の往診を希望している。精神科受診の必要な方は、職員が付き添い日頃の様子を伝え、指示を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	苑内に看護師はいない。必要時(24時間対応)には皆さんのかかりつけ病院に上申し指示をいただいている。また定期往診時には必要な情報を提供している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から特定の病院とは入所相談を受けたりなど関わりがある。また入院先の相談員とは短期毎に連絡、調整をしつつ早期の退院、もしくは苑での生活困難と判断された場合の次の先などについて一緒に検討している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に左記についてはご家族に話している。また改めて重度化の予測がされた段階でご家族、医師、職員等の意向を聴き皆でチームとなり支援に努めてきた	今までも看取りを行っており、今後に於いても家族、ドクター、施設側での話し合いの上、取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度救急法を学んでいるが昨年はコロナ禍で実行できなかった。来年度は早々に実施する予定である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。地域との協力体制も築かれている	火災の訓練は年2回、昼間と夜間想定で実施している。施設裏に大きな川が流れていることもあり、水害や地震の際など、車で避難場所への移動を含めた訓練を行っている。飲料水の確保に食品も多めにストックしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	左記について日常的に実行されていると思う	友達同士のような感じや馴れ合いになる場面もあり、周りからはどのように聞こえるかを考えるようにしている。身体拘束の研修や接遇研修を行うなどケアの基本として継続している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	左記の通り実行しているといえる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、全体のお茶会時にその日の予定を利用者に伝えている。特に入浴予定者については、拒否があれば無理のないようにするなど希望に沿ったケアに努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣服を選べる人についてはそのような対応を実行。また月に一回の散髪、髪染めについては希望者を募り、本人の意向に沿って実行している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が主となり、各利用者のできる範囲内で利用者の方にも無理なくして頂いている	施設裏に畑があり、季節の野菜を栽培して調理に使っている。調理専門の職員を雇用し3食作っている。盛り付けや食器拭きや片付けなどできる作業を手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	左記とおり実行している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	左記の通り実行しているといえる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	左記の通り実行しているといえる	重度の方が多くなり、自立の方は数名。個々に合わせて必要な介助をしている。紙パンツにパット使用の方が多いが、できるだけトイレで排泄できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	積極的にとまでは言えないが、できる範囲で個々に応じて取り組んでいるといえる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の状態を考え、入浴の時間帯も考慮し無理なく気持ちよく入浴していただけるよう支援している	大きめの家庭浴槽ではあるが、中に入れない方はシャワー浴対応。毎日午前午後共に入れるようになっており、週2回以上の入浴の機会を確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の身体状況、昨夜の睡眠の状況など勘案し、無理なく安心して気持ちよく過ごしていただけるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	左記の通り支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	左記の方向で支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の継続で外出はできていないが、日常的に近隣への散歩は継続している	外出行事としてはコロナ感染者の少ない時期に外食や、近くの公園にお弁当を持って出かけたこともあった。普段は近所の神社や施設周辺を散歩するなど、できるだけ外気にあたり気分転換できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	記憶障害のある方ばかりであり、基本的に所持はしていただいている。ご希望の品があるときにはご家族に相談し持参していただいたり、苑が代行し購入するなど本人の希望に沿うようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用、はがきを書くなど個々の状態、希望に応じて支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記のことを配慮しつつ日々支援している。たとえばリビング掲示板には季節感のある作品の掲示、歌の歌詞を書いたものの掲示をするなど工夫をしている	施設回りは平地で広々としており、前に道路があるも車の騒音も少なく静か。内部も廊下など移動に十分なスペースがあり、オープンキッチンで広くゆったりとくつろげる空間がある。中庭や裏には畑もあり、季節を感じながら生活できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	左記の思いをもち日常的に支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時ご左記のようにご家族には説明し、極力部屋への持ち込み品などについてはお願いしている	備え付けのクローゼットがあり、収納スペースは確保されている。家から持ってきたタンスを置いたり、テレビ、テーブル等が持ち込まれているが、特に何もいらないという方や鉢の花を沢山飾る方もあり、個々に合わせた部屋作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立には常に配慮している。例えば力のない利用者に対し水道の蛇口を使いやすいものに交換したりなど…都度起こった問題に対し対処している		